

東京トラウトカントリー溪流フライ教室

2010年1月10日（第2回）分の補足資料

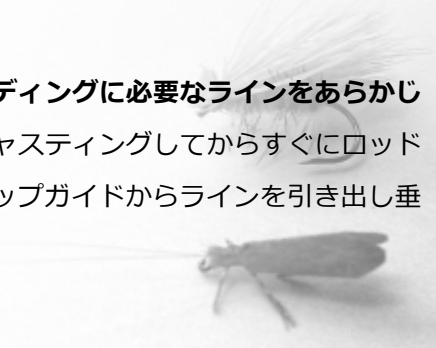
担当：宮崎 俊太

5ヤード（約4.5メートル）の距離感の補足

- フィッシュウインドウを意識しながら、見失いがちなフライの位置の予測にこの距離感を体感的に覚えておくの良い（＝釣りに有利な）キャストイング・ポジション選択を助けるだろうと思います。
- 水面をラインで叩かないようにソフトなプレゼンテーション（キャストイング・ステップの4）を行うとさらに効果的です。ソフトなプレゼンテーションをする際もフォワードキャスト（キャストイング・ステップの3）はしっかりと行ってください。

キャストイング練習の補足

- キャストイング開始の前に自分に合ったスタイルでしっかりとグリップをホールドしましょう。そうすることでキャストイングのために**ロッドを必要十分に曲げる準備**ができます。
- ロッドの動き（＝ロッド先端の軌跡）にラインが追従します。練習ではバックキャスト（キャストイング・ステップの2）とフォワードキャスト（キャストイング・ステップの3）で**しっかりとロッドを止めること**を意識しましょう。そうすることでキャストイング・パワーがラインに伝わります。
- ピックアップ（キャストイング・ステップの1）は水面や地面の上のラインを持ち上げて次のバックキャスト（キャストイング・ステップの2）への準備となります。意識してピックアップすることはライントラブルを防ぎながら効果的なバックキャストへの第一歩となります。
- メンディングのコツは**メンディングに必要なラインをあらかじめ出しておくこと**です。キャストイングしてからすぐにロッドティップをフリップしてトップガイドからラインを引き出し垂



らすようにしておきます。こうしてからメンディングをすることでフライに不要な動きを与えずにリーダー & ラインを動かすことが出来ます。ラインをリーダーとの境目を目安にピックアップ（キャストイング・ステップの1）してから体全体を使うようにしてロッドでラインを移動するように練習してください。それらの結果、フライをさらにドラッグフリーに流すことができます。また、キャストイング直後のタイトなラインをメンディングして緩ませることでニンフを速く沈めることができます。

- リーチキャストはフライにドラッグをかけないためのキャストイングです。主にややアップストリームからクロスストリームのポイントへのアプローチに有効です。5ヤードの距離感とキャストイングポジションを確認してから体全体を使ってロッドを操作するように練習してください。

アプローチの補足

- **流れをよく観察することがアプローチの第一歩となります。**不用意に川岸に近づきますとそこにいるトラウトを追いやってしまいます。岸近くはトラウト達にとっては特別な食卓です。
- アップストリームなポイントを狙う時、流れが体の右側にある時はロッドを右側に傾け（体の左側に流れがある時はロッドを左側に傾け）、フォワードキャスト（キャストイング・ステップの3）でロッドを止めないでプレゼンテーション（キャストイング・ステップの4）までソフトに移行してラインループをコントロールするとリーダー・ティペットよりフライを先に流す（=リーダー・ティペットよりフライを手前に位置させる）ことができます。ドラッグを防ぎながらポイントにフライから流し込めて効果的です。力加減や風向きなどを計算・利用して練習してください。

